

年九月任教授○同四十年八月美術審査委員を命ぜられ爾來今に至る○四十二年六月清國へ旅行のため休職○同年八月歸朝復職○大正二年十二月日本畫科主任を命ぜらる○同五年七月敍從五位○同六年六月帝室技藝員を命ぜらる○同七年七月敍勲五等授瑞寶章

● 陞任教官の略歴

三浦〔柳三郎〕助教 茨城縣の人、號光風、石川光明に牙彫を狩野壽信に畫を學び明治四十年九月本校牙彫部助手に就職せらる

小林〔萬吾〕教授 香川縣の人、明治三十一年本校西洋畫科選科卒業○同卅二年十一月本校助手○同卅七年九月本校助教○同四十四年二月滿三年間佛國伊國獨國へ留學を命ぜらる○大正三年六月歸朝○大正五年三月兼任東京高等師範學校教授

水谷〔鉄也〕教授 長崎縣島原の人、號佳園、初め奈良の彫刻家森川杜園に學び○明治三十五年七月本校彫刻科卒業○同三十六年本校助手○同三十八年十二月助教○同四十三年七月彫塑研究の爲め三年間佛伊獨國留學を命ぜらる○大正二年十二月歸朝松岡〔輝夫〕教授 播磨の人、號映丘、明治三十八年七月本校日本校畫科卒業○同四十一年九月本校助教

大島〔勝次郎〕教授 東京の人、號如雲、夙に祖業を紹ぎ鑄金に従事す、明治二十三年十二月本校雇○同二十四年八月本校技手に任す○同二十六年九月技手廢官により囑託となる、

矢代〔幸雄〕教授 横濱の人、第一高等學校を経て東京帝國大學法科大學商業學科に入り後文科大學英文學科に轉科、大正四年

七月卒業、卒業に際し優等學生として御下賜の銀時計を拜受す○同年九月本校英語、西洋美術史、西洋彫刻史授業囑託○大正六年三月第一高等學校英語授業囑託を兼ね

職員 動靜

久米桂一郎氏（教授）電話高輪一五一〇へ變更。

澤村專太郎氏（囑託）北豐島郡高田村鶉山一五〇一へ轉居せらる。

古宇田實氏（教授）十一月依囑託製作事業に關し長野縣へ出張を命ぜらる。

小林龜五郎氏（製版科助手）^{〔勸〕}勸務演習召集中のところ十一月三十日召集を解除せらる。

生徒 動靜

（今後在學生諸君の重要な動靜を本欄に於て報告すべし）
笠原千之氏（西二）十二月十二日病死せらる、哀悼に堪はず。

関連事項

① 西洋画科の教室制

西洋画科が大正七年九月の新学期より第三、第四年生に教室制を適用したことは「東京美術学校近事」(73頁)の記載どおりであるが、これは大正五年の東京美術学校改革運動における改革派の、教師の個人的薰化に重きを置いた教育法を実施すべしという主張をとり入れたものである。この改革について東西美術出版社『美術新報』第一卷第一号(大正七年十月)には次の記事が載っている。

■東京美術学校洋畫科教室制に變る

〔2〕上野の東京美術学校の西洋畫科では、今回其組織を改めて教室制度となし愈此の新學期から實行する事になつた、従来の洋畫科は各年級に従つて受持教師を定め一年長原孝太郎、二年和田英作、

三年藤島武二、四年及卒業期を黒田清輝氏等の各教授連が受持つて居たのであるが、今度は三年以上を限り教室制度になし、各生徒は己れの好む教室に入り己れの選んだ師に就て學ぶ事が出来るのである、教室の數は三つに分れ従來圖案科に居た岡田三郎助氏が入つて岡田、和田、藤島の三教室が出来、黒田教授は研究科を受持ち傍ら總てを統一する事になる、右に就いて正木〔直彦〕校長は『從來は非常にまち／＼であつて多少の非難もあつたが、今後教室制度になれば教授上にも統一され生徒には大變便利である、教室は分れても競技は一處にするのであるから、教授達は却て苦しい理である、誰の教室が多いか分らぬが或は親切であるから多い處もあらうし、作品の優秀な點から生徒の殖える處もあらう、中々面白い現象を見られる事と思ふ、外の組織の案もあつたが、自由に己れの好む師に就く事が出来ると思ふのが一番いゝ様に思ふ、』と語つた。

教室分けによる各教室の生徒数については不明であるが、これより數年後、十數年後の生徒たちの発言によれば特に藤島教室に生徒が多く集まり、大きく身動きすることもできない状態のときもあつたようである（『東京美術学校の歴史』桑原実監修、磯崎康彦・吉田千鶴子著、昭和五十二年、日本文教出版）。

西洋画科に倣い、彫刻科も三年後に人事刷新が行われたのを機に

教室制を採用する。しかし、日本画科は次に述べるように教室制を学年制に改めるといふ反対の改革を行なつた。

② 日本画科の学年制

西洋画家の改革と時を同じくして日本画科も大正七年九月に教授法を改革したが、それは従來の教室制を改めて学年制にするといふ、西洋画科とは反対の改革であつた。この改革により各学年の担任は次のように定められた。

予備科 交代

第一年 篠田柏邦助手

第二年 小泉青堂助教授

第三年 松岡映丘助教授

第四年 結城素明教授

卒業期 松岡映丘

研究科 結城素明

寺崎広業、小堀鞆音、川合玉堂の三教授は平等に各学年を指導する。

なお、同科はこの年の十一月に主任教授の寺崎広業が辞職して翌十二月川合玉堂が主任となり、また、松岡映丘が教授に昇格するなどの人事異動があつた。

③ 彫刻科の卒業制作補助費

大正七年九月二十八日の彫刻科教官會議では次のことが検討された。